動静以天地
視哉涌泉美

鈿之翁

涌泉能番組

仕舞　熊坂　高林呻二

一曲独吟　安宅　高林白牛口二

休憩二十分

三輪　高林昌司
福王知登　山本寿弥　中田一葉
成田奏　貞光智宣
間　茂山茂

附祝言

終了後　アフタートーク
終了予定　十六時半頃

今回の「安宅」の一曲独吟について

高林白牛口二

この度の一曲独吟には「安宅」を選びました。この「安宅」という曲は能の中でも大きな存在であり、また歌舞伎にも取り上げられている程の有名な曲です。今さらこの曲の背景などを解説する必要は勿論無いと思います。能を舞う者の立場からの私が持っている「安宅」の能としての意図を考えて見ようと思います。

先ず、場面の経過を箇条書きにして羅列しますと

一、関守富樫の名乗り
二、京都を出発して安宅に着くまでの道中
三、山伏選別の関所を通過する為の相談
四、関所に入り関守との問答
五、山伏の祈祷の迫力
六、空文の勧進帳を読み上げる弁慶
七、義経に気付いた関守を欺く弁慶の機転
八、関所を通され一息付いての一同の安堵
九、追っ掛けてきた関守との酒宴

となります。

以上のように現在物として、弁慶の気迫と機転の利いた策略が生々しく連なっています。但し、この「八」の部分が能の安宅として、非常に重要な意味を持っています。能の全般を見て、その曲の中で、重要な意味を持つ部分を、居曲（イグセ）としている曲が沢山あります。居曲とは、シテを始め立役の者が一同に下に座し、地謡がその部分を、謡の力だけで表現するのです。この「八」の部分が能の安宅として一番重要な部分となります。これが能の醍醐味です。能の一曲の出来栄えの善し悪しは地謡の責任が、七割から八割を担っているのです。

今回はこの難曲「安宅」を一曲独吟として挑戦します。九十歳を超えて、大層な冒険ですが、生涯の思い出の一つになるように考えています。

次回予告

令和八年四月十一日（土）　十三時始
於　大江能楽堂

一曲独吟　巴　高林白牛口二

籠太鼓　高林呻二

主催
高吟会

許可なく写真撮影録音録画は、堅くお断り致します。携帯電話　ポケットベル　時計のアラームは、予めお切り下さい。